

2022 年度卒業生学修成果アンケート報告

教学部

2023 年 3 月学位記授与の日に、2022 年度卒業生を対象として大学での学修成果に関するアンケート調査を行った。対象となる学生数は 200 名、アンケート回収数は 124、回収率は 62.0%であった。2022 年度は 3 年ぶりに全学での学位記授与式に続いて学部別の式典を行われた。アンケートは Web 上の回答フォームで実施され、学部別式典後に卒業生に回答を依頼した。一部学科でアンケート実施について卒業生への周知が不十分であり、少数の回答しか得られなかった。

1. 質問項目

アンケートでは、以下の 12 の能力に関して、学生自身が、大学での授業および活動を通じてどの程度身につけていたと考えるか、ということを探ねた。

- ①人間の文化や社会、および自然に関する幅広い知識・理解
- ②専門的な知識・技能
- ③ICT 能力（パソコン等を用いて、情報を収集・分析する能力）
- ④コミュニケーション能力（意思疎通、協調性、自己表現能力）
- ⑤外国語能力
- ⑥物事を論理的に考える力
- ⑦文章を作成する力
- ⑧プレゼンテーションをする力
- ⑨グローバルな視点から物事を把握しようとする態度
- ⑩社会への奉仕の精神、および人を思いやる心
- ⑪自らが有する知識・技能・態度等を総合的に活用して課題を解決する能力
- ⑫社会的、職業的に自立して生きていくための就業力

これらの能力の多くは本学のディプロマ・ポリシーで挙げられているものであり、①②は、ディプロマ・ポリシー「1. 知識・技能」、③④は「2. 技能」、⑨⑩は「3. 態度・志向性」、⑪は「4. 総合的な学習経験と創造的思考力」に対応している。それ以外の⑤⑥⑦⑧⑫は、一般に、大学教育で修得、向上が目指されるべきと考えられる能力である。

回答選択肢は、「とても身についた」「ある程度身についた」「あまり身につかなかった」「まったく身につかなかった」の 4 つとした。以下、「評価点」と呼ぶものは、それぞれを 3 点、2 点、1 点、0 点として算出した平均点である。

2. 全学のアンケート結果

全学で、「身についた」という評価が高かったのは、「②専門的な知識・技能」（3 点満点中 2.55）および「④コミュニケーション能力」（2.52）であった。

相対的に評価が低かったのは、「⑤外国語能力」(1.89)であった。外国語能力についての評価は、これまでのアンケート調査でも最低であり、本学における継続した改善課題といえる。

すべての項目で 2021 年度から評価値が上昇しており、本学が提供する教育サービスに質的な向上が認められた。全学平均評価点 2.37 は昨年度 (2.25) より高く、過去 7 年間 (2016 年度 2.18, 2017 年度 2.18, 2018 年度 2.10, 2019 年度 2.19, 2020 年度 2.26, 2021 年度 2.25) を見渡すと安定して上昇傾向が見られている。教学面での改善の成果が得られていると言える。

3. 学科別のアンケート結果

学科別で見ると、最も評価が高いのはスポーツ健康学科 (2.51) であり、次点は心理臨床・子ども学科 (2.37), 続いてアート・デザイン学科 (2.35) とトータルビューティ学科 (2.35) であった。4 学科とも⑤外国語能力を除く項目で 2 を超える評価となっており、バランスのよい学修成果が得られていることがわかる。特にスポーツ健康学科は 8 項目、アート・デザイン学科は 4 項目で 2.50 を超える高い評価点が得られており、教学面での学生満足度が高いことが読み取れる。トータルビューティ学科は「⑤外国語能力」(2.20) も 2 を超える評価値であり、全ての側面で比較的高い満足度が得られた。

評価点が低かったのは医療工学科 (1.86) であった。医療工学科では 8 項目で 2 以下の低い結果が得られている。ただし、医療工学科は回答者が 3 名と少なく、評価値の低い学生に偏った回答が得られている。

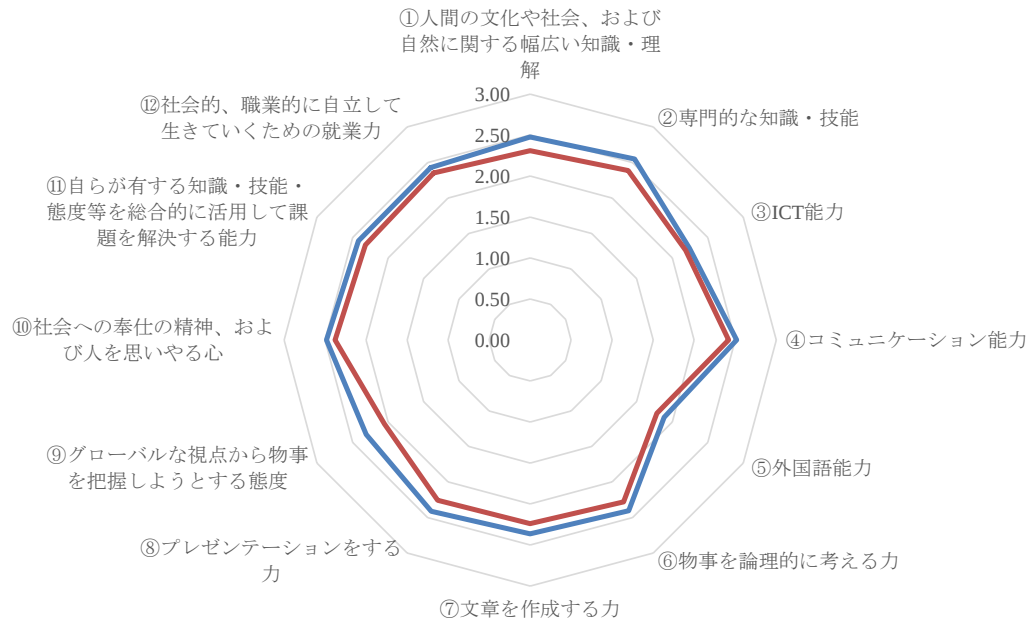
その他の学科のうち、国際交流学科ではすべての項目で 2 以上となっているものの、特に「⑤外国語能力」(2.26) が他学科と比べて高い評価値となった。この傾向は例年認められており、学科カリキュラムの特徴が反映された結果といえる。

健康栄養学科は「④コミュニケーション能力」(2.44) が高い一方で、「⑤外国語能力」(1.11) と「⑨グローバルな視点」の 2 項目にて評価値が低い結果となった。特に⑨は 2020 年度から継続して評価が低く、喫緊の改善課題と言える。

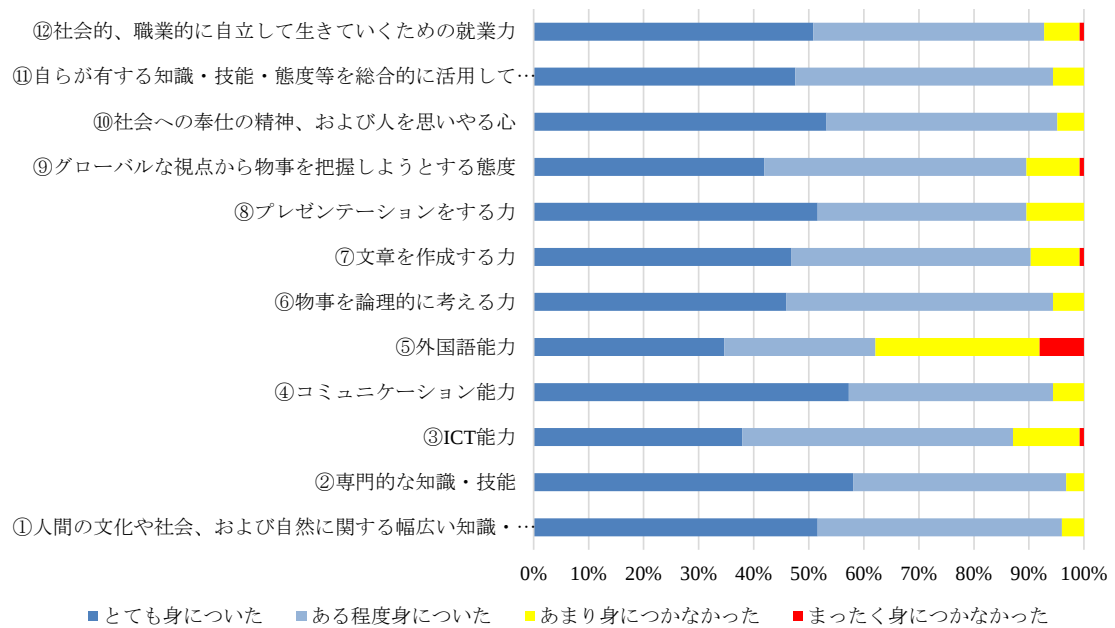
3 年前から繰り返し指摘されているとおり、専門的な知識や技能に偏って評価値が高い点が懸念される。「⑤外国語能力」に加えて、「③ICT 能力」では低評価の回答率が高く、今後の社会を生き抜くために必要な知識、能力をバランス良く身につけさせることが必要と考えられる。そのためにも、共通教育科目および学科専門教育科目における外国語科目の充実に加えて、数理・統計・データサイエンス科目の設立や専門教員の雇用、情報教室の設備改善を 2023 年度に取り組むべき課題として指摘しておく。

全学評価点

— 2022年度 — 2021年度



全学回答比率



	心理臨床 (31名)	国際交流 (19名)	スポーツ (35名)	医療工 (3名)	健康栄養 (9名)	アート (12名)	TB (15名)	全学 (124名)
①人間の文化や社会、および自然に関する幅広い知識・理解	2.48	2.37	2.63	1.67	2.33	2.50	2.47	2.48
②専門的な知識・技能	2.58	2.26	2.66	2.67	2.67	2.58	2.47	2.55
③ICT能力	2.19	2.00	2.46	2.33	2.11	2.17	2.27	2.24
④コミュニケーション能力	2.52	2.42	2.69	2.00	2.44	2.33	2.53	2.52
⑤外国語能力	1.87	2.26	1.89	0.33	1.11	1.92	2.20	1.89
⑥物事を論理的に考える力	2.48	2.26	2.46	1.67	2.22	2.58	2.40	2.40
⑦文章を作成する力	2.42	2.37	2.46	1.67	2.22	2.25	2.33	2.36
⑧プレゼンテーションをする力	2.35	2.42	2.57	1.67	2.33	2.42	2.33	2.41
⑨グローバルな視点から物事を把握しようとする態度	2.23	2.26	2.51	1.67	2.00	2.25	2.40	2.31
⑩社会への奉仕の精神、および人を思いやる心	2.45	2.47	2.60	2.33	2.44	2.50	2.33	2.48
⑪自らが有する知識・技能・態度等を総合的に活用して課題を解決する能力	2.45	2.47	2.60	2.00	2.22	2.33	2.13	2.42
⑫社会的、職業的に自立して生きていくための就業力	2.45	2.37	2.57	2.33	2.22	2.33	2.33	2.43
平均点	2.37	2.33	2.51	1.86	2.19	2.35	2.35	2.37

学科別低評価割合 ※「あまり身につかなかった」「まったく身につかなかった」の割合								
	心理臨床 (31名)	国際交流 (19名)	スポーツ (35名)	医療工 (3名)	健康栄養 (9名)	アート (12名)	TB (15名)	全学 (124名)
①人間の文化や社会、および自然に関する幅広い知識・理解	6.5%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	8.3%	6.7%	4.0%
②専門的な知識・技能	0.0%	5.3%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%	13.3%	3.2%
③ICT能力	6.5%	15.8%	14.3%	0.0%	11.1%	25.0%	13.3%	12.9%
④コミュニケーション能力	9.7%	0.0%	2.9%	0.0%	0.0%	16.7%	6.7%	5.6%
⑤外国語能力	41.9%	5.3%	37.1%	100.0%	77.8%	50.0%	26.7%	37.9%
⑥物事を論理的に考える力	3.2%	0.0%	8.6%	33.3%	11.1%	8.3%	0.0%	5.6%
⑦文章を作成する力	6.5%	5.3%	5.7%	33.3%	11.1%	16.7%	20.0%	9.7%
⑧プレゼンテーションをする力	16.1%	5.3%	2.9%	33.3%	11.1%	8.3%	20.0%	10.5%
⑨グローバルな視点から物事を把握しようとする態度	12.9%	10.5%	5.7%	33.3%	22.2%	8.3%	6.7%	10.5%
⑩社会への奉仕の精神、および人を思いやる心	3.2%	0.0%	2.9%	0.0%	11.1%	8.3%	13.3%	4.8%
⑪自らが有する知識・技能・態度等を総合的に活用して課題を解決する能力	0.0%	0.0%	2.9%	0.0%	11.1%	16.7%	20.0%	5.6%
⑫社会的、職業的に自立して生きていくための就業力	9.7%	0.0%	5.7%	0.0%	11.1%	8.3%	13.3%	7.3%